

学校だより



令和4年10月31日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「〇〇の秋」

学校長 矢島 孝幸

「今日は心地よく過ごしやすい天気だな。」と思う毎日となりました。学校は運動会に向けて、応援団や高学年リレー、各学年の練習が佳境に入ってきている日々です（本号がお手元に届く頃は、運動会も終了していると思いますが）。目標に向かって頑張っている子どもたちの姿は、とても素晴らしいです。当日の最高に輝く子どもたちの姿を期待します。今年度は、3年ぶりに全校児童が運動場に集合しての開催です。1年生から6年生までが互いの良さや全力で頑張っている姿を見合い、認め合うことができるような運動会となることを期待しています。

さて、『〇〇の秋』という言葉があります。秋は過ごしやすい、自分にとって興味・関心があることに集中して取り組める季節だったり、秋の気候の心地よさがやる気をみなぎらせてくれたり、個々に応じた『秋』ということなのでしょう。子どもたち一人一人にとってはどんな『秋』となっているのでしょうか。この季節学校では、様々な教育活動が展開されています。1年生は、白幡の森へ秋を探しに行き、季節を感じてきました。2年生は、「ズーラシア遠足」で動物との出会いを楽しみました。3年生は、「金沢動物園・森永工場見学」で自然を感じ、森永のお菓子ができる工程を勉強してきました。4年生～6年生は、ゲストティーチャーを招いた様々な出前授業を行っています。神奈川消防署の方々にご協力いただき消防に関する学習を行ったり、ローゼンボアの方からパン作りや仕事に対する思いを聞かせてもらったり、実際にご自身が仕事を行っている方々からお話を伺いながら学習を深めています。コロナ禍の中で、思うように進めることができなかつた学習を徐々に再開しています。教科書を通して学ぶこと、自分で調べて課題を解決して学ぶことはとても大切ですが、「本物に触れる」ことは、より関心が高まるとともに、心に残る学習となることを再認識しています。コロナ禍を通して新しく実感した教育活動とコロナ禍以前の教育活動を融合して、子どもたちにとって価値のある教育活動を進めていきたいと思えます。振り返ると本校にとっての秋は、まさに『**本物体験の秋**』と言えますね。



先日、私の知り合いから依頼があり、ネパールの教育関係の方々
が本校に視察に来ました（日本でいう文科省や教育委員会等に従事
している方々です）。全校での避難訓練や授業を参観し、その後に
たくさんの質問を受けました。熱心な質問から、国を挙げてネパ
ールの公教育の質を高めていこうとする思いを感じました。私からネ
パールの教育に関する話を聞く時間はなかったので、日本との比
較はできませんが、教育に対する熱い思いは、とても刺激となりま
した。私もネパールの方々に負けない**情熱**で、二谷小をリードしていきたいと思えます。